【調査報告】

美郷村の獅子舞

高橋晋一

一　はじめに

徳島県教育委員会編『徳島県の民俗芸能』（一九九八年）によれば、現在徳島県下の五七ヵ所で獅子舞が行われているとされる［徳島県教育委員会一九九八　二］。そのうちいくつかの獅子舞については、市町村史や民俗芸能調査報告書などに概要が紹介されているが、各地の獅子舞の歴史・組織・芸態などに関する詳細な報告は、これまでほとんどなされていないというのが現状である(1)。そのため徳島県では、地域を越えた獅子舞の比較研究が十分に進んでこなかったと言える。

本稿では、徳島県麻植郡美郷村の二つの地域に伝承されている獅子舞の実態について報告(2)し、今後の比較研究のための資料としたい。

二　平八幡神社獅子舞

［伝承地］

麻植郡美郷村大字別枝山字平（平八幡神社氏子）。

［上演の期日、機会、場所等］

平八幡神社秋祭り（毎年一〇月二四日）の際に境内、および御旅所で奉納される。そのほか最近では、「ほたる祭り」（毎年六月第一土・日曜に大字別枝山字宗田の「美郷村ふるさとセンター」で開催）、「ヘルスランド祭り」（毎年一一月中旬に大字東山の「ヘルスランド美郷」で開催）など村のイベントにも定期的に出演している。

［由来・歴史］

昔、穴地の穴山という家に病気が発生し、魔よけのために獅子頭一対を祀った。法印様がそれを見に来て、以後病気よけのために城戸地区で獅子舞を行うように告げたので、その後獅子舞を行うようになったと言われている。創始の時期は文化年間（一八〇四～一七年）とされる。獅子舞は麻植郡山川町北島から（さらにさかのぼれば香川県から）伝承されたものとされている（流派は「小笠原流(3)」であるという）。

獅子舞は戦中戦後にかけて四年間ほど中断していた時期があったが、直ちに復活し、現在に至る。

［行事の次第］

平八幡神社の秋祭り当日（一〇月二四日）、神社に到着したら獅子のお祓いを受けて境内で舞う。次いで神輿が「お旅」（御旅所渡御）に出るまでの間に一、二回境内で舞う。さらに「お旅」の際、御旅所まで付いていって一回舞う。計三、四回舞うことになる。

「ほたる祭り」や「ヘルスランド祭り」などのイベントでは、所定の時間に会場の広場で一回舞う。

［芸能の構成・扮装］

・獅子二頭（一頭につき頭と後ろに一人ずつ入るので、四名が必要）
・向こう太鼓二
・中太鼓（曲打ち）二
・拍子木二
・錫杖一

獅子、向かい太鼓、拍子木、錫杖は大人の男性、中太鼓は小学生男子（最近は女子も可）が担当する。以前は、中太鼓は小学校四、五年生くらいの子供（男子）、向こう太鼓は青年（中高生）、獅子舞は壮年、拍子木は年輩の人というように、年齢によってうまく役割が決まっていた。現在は、中太鼓二名が小学校高学年の子供である以外、大人が担当している。

錫杖は獅子舞に事故がないようにという意味で、太鼓の横に付く。

衣装は現在は揃いのハッピだが、以前は自分の好きな衣装を着ていた。中太鼓の子供が派手な衣装を着ることは変わりない。

四つの太鼓は木製の台枠の上に固定して演奏する。外側に向こう太鼓各一、内側に中太鼓二という配列となっている。中太鼓の打ち子と獅子は神前に向かい、向かい太鼓の打ち子は神前に背を向けて（中太鼓、獅子と向かい合うように）立つ（写真1）。

獅子舞の演技は一通しで一五分ほどかかる。舞い全体のストーリー展開は不明である。太鼓の符丁（トントンカコカといったような）で踊りが変わる。舞いの中に中太鼓が獅子を使うような仕草がある。

まず、二頭の獅子の前に入る人がそれぞれ獅子頭を手に持ち、太鼓に合わせて獅子頭を上下左右に振る。ここで拍子木が入る。前の人が獅子頭を振り続け、タイミングを合わせて前後の人が同時に素速く獅子に入る（幕をかぶる）。以降の動作を次に示す。

①二頭の獅子が正面（太鼓の方）を向き、大きく上下に揺れる。このとき前の人は獅子頭を下げ、後ろの人は直立して両手を大きく広げバンザイの形をし、幕がピンと（正方形に）張った状態にする（写真2。以下この動作が入る場合を◎で表す）。
②◎獅子が背中合わせになり、首を左右に振る。
③◎獅子が首を左右に振りながら太鼓から離れていく。
④◎獅子が背中合わせになり、首を左右に振る。

写真1　打ち子（平八幡神社獅子舞）

⑤◎獅子が首を左右に振りながら太鼓の方に進んでいく。
⑥獅子が上下に大きく揺れる。
⑦◎獅子が一八〇度向きを変えて、首を左右に振りながら太鼓から離れていく。
⑧◎獅子が一八〇度向きを変えて、首を左右に振りながら太鼓の方に進んでいく。
⑨◎獅子が背中合わせになり、首を左右に振る。
⑩◎獅子が向きを変えて、首を左右に振りながら太鼓から離れていく。このときブチを持った子供二人が獅子の前に立ち、獅子を先導するような仕草をする（写真3）。
⑪獅子が一八〇度向きを変えて、首を左右に振りながら太鼓の方に進んでいく。子供は素早く太鼓の元へ戻る。
⑫獅子が正面（太鼓の方）を向いて上下に大きく揺れる。子供は太鼓を叩いては、獅子の方を振り返って獅子を打つ仕草を繰り返す。
⑬◎獅子が上下左右に大きく揺れる。
⑭◎獅子が向かい合って首を左右に振る。
⑮◎獅子が首を左右に振りながら太鼓から離れていく。
⑯◎獅子が向かい合わせになって首を左右に振る。

写真2　幕を広げた獅子（平八幡神社獅子舞）

⑰獅子が首を左右に振りながら太鼓の方に進んでいく、
⑱獅子が正面（太鼓の方）を向いて上下左右に大きく揺れる。
⑲獅子が首を左右に振りながら前進、後退を繰り返す。
⑳◎獅子が左手を向いて首を左右に振る。
㉑◎獅子が後ろを振り返って首を左右に振る。
㉒◎獅子が背中合わせになり、首を左右に振る。
㉓獅子が首を左右に振りながら太鼓の方に進んでいく。
㉔◎太鼓の前で首を左右に振る。

写真3　獅子を先導する中太鼓
（平八幡神社獅子舞）

［芸能を支える組織と伝承形態］

平八幡神社の獅子舞は、一九七七年（昭和五二）に「平八幡神社獅子舞保存会」が結成される以前は、平八幡神社氏子のうち穴地・上城戸・下城戸・長後・下浦の五地区の住民が担当していた。秋の地神さん（農業の守護神である地神のまつり）のときに前記五地区の人が四つ足堂（城戸の地蔵堂）に集まり、八幡神社の祭りのトウヤや、獅子をする人を決めていた。

一九六五年（昭和四〇）頃より地域の過疎・高齢化・少子化が進み、伝

承に対する危機意識が芽生え、指定文化財申請への動きが起こる。一九七七年、平八幡神社の獅子舞は美郷村無形民俗文化財に指定され、同時に平八幡神社獅子舞保存会が結成された。

保存会結成後は、平八幡神社の氏子を中心としながらも、広く美郷村全域に会員の幅を広げて伝承に取り組んでいる。

練習は、以前は夜に地区の家を一軒ずつ順番に回ってやっていた。一ヵ月くらいかかった。以前獅子を振って覚えている人が指導に当たった。練習の場所を提供する家では、夜食に寿司や酒などを出した。

保存会ができてからは、皆経験者なので、一、二晩「ブチあわせ」（「ブチ」とは太鼓のバチのこと）をするだけである。子供の中太鼓は、保存会事務局の藤本茂樹氏（山川町麦原在住）が、祭りの一ヵ月ほど前から一〇日間くらいかけて教えている。

三　東山獅子舞・獅子太鼓

［伝承地］

美郷村大字東山字栗木（広幡八幡神社（上の宮）氏子）。広幡八幡神社は東山字暮石の暮石八幡神社（下の宮）に対して「上の宮」と呼ばれている。

［上演の期日、機会、場所等］

かつては広幡八幡神社の秋祭り（毎年一〇月二四日）に境内および御旅所で奉納されていた。一〇年ほど前に復活してからは「ほたる祭り」「ヘルスランド祭り」などの村のイベントなどに出演するのみとなっている。

［由来・歴史］

東山獅子舞・獅子太鼓の由来・歴史についてははっきりしたことはわからないが、少なくとも戦前からあった。

［行事の次第］

一〇月二四日の祭り当日、神輿が出る前（一三時頃）に境内で獅子をやった。その後、屋台、ヨイヤショとともに神輿のお供をし、御旅所でもう一回舞った。

［芸能の構成・扮装］

・獅子二頭（一頭につき頭と後ろに一人ずつ入るので四人が必要）
・大太鼓四
・かけ太鼓二（または四）
・拍子木二

東山（広幡八幡神社の氏子区域）は六つの名（ムラ）からなり、以前は太鼓の打ち子各一名（計六名）、獅子各二名（計一二名）が出た。

獅子は右手が雄、左手が雌。獅子は二人立ちで、「頭」と「後」に一人ずつ入って舞う。

写真４　打ち子（東山獅子太鼓）
（映像提供：尾崎歌子・佐藤久吉氏）

獅子はかつては青年団が担当していた。学校を卒業したら青年団に入れた。（獅子が）好きな人は毎年続けて出ていた。

大太鼓、かけ太鼓は小学校一～六年生が担当した。昔、子供の数が多かった頃は、「今度はうちが出すわ」という形で（まだしていない子供がするという形で）交代交代で太鼓の打ち子を出していた。

現在はハッピを着て演奏するが、これは東山女性の会で伝承するようになって作ったものである。

太鼓は、両端に大太鼓各一（または二）、その間にかけ太鼓四を並べる。大太鼓は竹のブチ（バチ）、かけ太鼓は桐のブチで叩く。太鼓は緩い弧を描くように並べる（写真4）。本来、獅子と太鼓は神前の方を向いて奉納するものであるが、獅子・太鼓の動きがお互いに見えた方がやりやすいので、現在は獅子と太鼓が向かい合うような形をとっている。

獅子舞の演目には、キョク、ミアイ、マチ、サッサーがあった。キョクは少し難しく、現在は伝承されていない。ミアイは一番きれいに見える。ミアイを演じるとき、かけ太鼓の子供が獅子を追い飛ばすような仕草をする。サッサーはもっとも簡単で、獅子太鼓・獅子舞ともに最初に覚える演目である。

写真５　横並びで舞う獅子（東山獅子舞）
（映像提供：尾崎歌子・佐藤久吉氏）

まず最初に御神楽をして、それから拍子木に合わせて舞い始める。演じる順序は特に決まっておらず、拍子木の合図にあわせて踊り出す。

ミアイでは、まず二頭の獅子が向かい合い、互いに首を左右に振る。続いて二頭の獅子が横並びになり（正面を向き）太鼓に合わせて首を左右に振る（写真5）。再び二頭の獅子が向かい合い、首を左右に振り合うが、やがて二頭の獅子が首の付け根あたりを互いにすり合わせるような仕草をする（エリグイ。写真6）。雄獅子が雌獅子を上から押しつけるような所作をすると、下側にいる雌獅子がそれを突いて追い払うような仕草をする。最後に二頭の獅子が横並びになり（正面を向き）太鼓に合わせて首を左右に振って終わる。

サッサーも基本動作はよく似ている。

獅子舞はヒトキリ（一演目）約一〇分で、一通り演じると約二〇～三〇分かかる。

写真６　エリグイ（東山獅子舞）
（映像提供：尾崎歌子・佐藤久吉氏）

［芸能を支える組織と伝承形態］

獅子舞・獅子太鼓は戦時中一時中断したが、一九四七年（昭和二二）に経験者の間で「また獅子をせんか」という話が持ち上がり、復活した。その後五、六年続いたが、またしばらく中断した。

一〇年ほど前、東山小学校教諭・尾崎歌子氏が復活を呼びかけ、獅子舞と獅子太鼓の経験者である佐藤久吉氏が小学校の子供に獅子舞と獅子太鼓を教えた。その後、子供の数が少なくなり伝承が難しくなったため、獅子舞と獅子太鼓は東山地区の女性一二、三名からなる「東山女性の会」（平成四年結成）が伝承することになった。佐藤久吉氏は小学校の子供にはミアイ、マチ、サッサの三つ、東山女性の会のメンバーにはミアイとサッサを教えた。

その後、広幡八幡神社の秋祭りや「ほたる祭り」などのイベントで何年か続けて舞っていたが、メンバーが高齢化し、獅子を動かすのが難しくなってきたため、二〇〇二年（平成一四）から再び中断している。

四　おわりに

平八幡神社獅子舞と東山獅子舞は、①二頭立て獅子である点、②太鼓＋太鼓打ちの芸をする（太鼓を打ちつつ時折獅子と絡む）子役＋獅子という構成を持つ点は共通しているが、同じ美郷村内の獅子舞でありながら、その舞いのスタイルはかなり異なっている。

平八幡神社の獅子舞の動きはかなりダイナミック（小きざみに転換がある）で、連続的に演じられる。演技全体の流れに統一感が感じられることから、（名称は失われているものの）これで一つの演目となっているように思われる。獅子が前後に長く伸びた状態よりも、立ち位置で踊られることが多く、水平軸よりも垂直軸が強調された舞いのように見える。特に獅子の後ろ役の人が直立し両手を広げて幕を張る所作は独特のものである。

一方、東山獅子舞の舞いは急激な場面転換が少なく、動き自体は比較的シンプルである。ただ、「エリグイ」という獅子の絡み方は独特なものである。完全な立ち位置で舞われることは少なく、前後に長く伸びた状態で舞われることの方が多い。垂直軸よりも水平軸が強調された舞いのように見える。

このような芸態の違いから、美郷村内の二つの獅子舞は、伝播経路が異なっている可能性が高い。平八幡神社獅子舞は香川県から山川町北島を経て伝わったとされるが、東山獅子舞については今のところどの地域から伝わったかはっきりしない。東山は山川町や川島町など吉野川流域の地域との交流が強い地域である。一方、吉野川流域の獅子舞の中には、香川県から伝えられたとされるものが少なくない。今後はこうした近隣地域との文化交流を念頭に置きつつ、（特に鳴り物の形態・構成・リズムや、舞いの名称・構成・芸態などを比較検討する中から）、伝播の可能性について検討する必要がある。本稿ではそうした比較検討を行う前段階の基礎作業として、まずは二つの獅子舞の現状報告を行うにとどめておく。

［謝辞］

今回の調査に当たっては、以下の方々にお世話になりました。記して謝意を表します。藤本好孝氏（平八幡神社獅子舞保存会会長）、藤本茂樹氏（平八幡神社獅子舞保存会事務局長）、佐藤久吉氏（東山獅子舞・獅子太鼓指導

者)、尾崎歌子氏(東山小学校教諭、東山女性の会)。

[付記]

本稿は、阿波学会による平成一五年度総合学術調査(美郷村)に基づく研究成果の一部である。

注

(1) 平八幡神社の獅子舞に関しては、徳島県教育委員会編『徳島県の民俗芸能』[徳島県教育委員会 一九八五 三二]に簡単な紹介があるが、東山獅子舞については未収録である。徳島県教育委員会編『徳島県の民俗芸能』[徳島県教育委員会 一九九八]巻末の「平成八年度徳島県民俗芸能緊急調査悉皆調査一覧」には、平八幡神社獅子舞は掲載されているが、東山獅子舞については記載がない。調査時点では中断していたため調査対象から外したものと思われるが、民俗事象の正確な理解を行うためには、中断・廃絶したものも含めて確認調査を行う必要があろう。なお、獅子舞が中断した後も、舞いは舞わないものの、神輿巡幸に獅子が参加しているケースは少なくない(勝浦郡上勝町田野々・神明神社祭礼、那賀郡那賀川町八幡・八幡神社祭礼、海部郡由岐町伊座利・新田八幡神社祭礼など)。しかし従来の調査報告書や市町村史には、こうしたケースはほとんど記載されていない。

(2) 美郷村の獅子舞に関する調査(観察および聞き取り調査)は、二〇〇二年一〇月二三~二四日、二〇〇三年一一月一四日、一一月一六日に行った。

(3) 小笠原流の獅子舞は、香川県三豊郡西部に多く見られるという[溝渕 一九九九 九]。

参考文献

徳島県教育委員会編 一九八五『徳島県の民俗芸能―無形民俗文化財調査報告書』 徳島県教育委員会

徳島県教育委員会編 一九九八『徳島県の民俗芸能―徳島県民俗芸能緊急調査報告書』 徳島県教育委員会

美郷村史編纂委員会編 一九六九『美郷村誌』 麻植郡美郷村

溝渕茂樹 一九九九「香川県の獅子舞概観―香川県民俗芸能緊急調査より」『瀬戸内海歴史民俗資料館紀要』一二 一~二九

(〒七七〇―八五〇二 徳島市南常三島町一―一 徳島大学総合科学部)